

黙示録5章：屠られた小羊

4－5章：天における情景

4章：父なる神への礼拝

24人の長老、そして四つの生き物。彼らが絶え間なく礼拝。「すべてを支配する神」として。

5章：子なるキリストへの賛美

1－4節：封印された巻き物

「右の手」：権威と力を表す

「巻き物」：昔は本ではなくて巻き物に文字を記した。

エゼキエルはエルサレムに対する裁きの巻物を渡された(2:9－10)。

ゼカリヤ書5章に、この文字が、悪を行なう者たちを取り除く言葉であることが書かれている。

6章以降に、封印が解かれた後にたくさんに災いが下る。

「封じられていた」：「ダニエルよ。あなたは終わりの時まで、このことばを秘めておき、この書を封じておけ。多くの者は知識を増そうと探り回ろう。(ダニエル 12:4)」

「封印を解くのにふさわしい者」

ここの「巻き物」は、神が世界をご自分のものにしていく(黙示 4:11)ことを表す。

つまり、全世界の土地権利書である。

神の贖いの物語

1. 神はまず、アダムにご自分の世界を任された。

「生めよ。ふえよ。地を満たせ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地を這う全ての生き物を支配せよ。(創世 1:28)」

2. ところが、アダムが悪魔の言うことを聞き、悪魔が世界を支配するようになった。

「この世を支配する者が来るからです。彼はわたしに対して何もすることはできません。(ヨハネ 14:30)」

3. キリストは、この世界を神のもとに買い戻す(贖う)ために来られた。

「天の御国は、畑に隠された宝のようなものです。人はその宝を見つけると、それを隠しておいて、大喜びで帰り、持ち物を全部売り払ってその畑を買います。(マタイ 13:44)」

「持ち物を全部売り払って」 → キリストの血と命(1ペテロ 1:18-19)

「宝」は？ → 教会、信じる者たち

イエス様が受けられた誘惑

「今度は悪魔は、イエスを非常に高い山に連れて行き、この世のすべての国々とその栄華を見せて、言った。『もしひれ伏して私を拝むなら、これを全部あなたに差し上げましょう。』(マタイ 4:8-9)」

イエス様は、悪魔のこの発言を否定されなかった。実際に世界は悪魔のものだった。けれども十字架無しに、この世を自分のものにするつもりはなかった。

4. キリストは、ご自分の血によって世界を買い戻された。けれども、まだその所有権を行使されていない。

「『…万物をその足の下に従わせられました。』万物を彼に従わせたとき、神は、彼に従わないものを何

一つ残されなかったのです。それなのに、今でもなお、私たちはすべてのものが人間に従わせられているのを見てはいません。(ヘブル 2:8)」

だから天災が起こって神を非難してはいけない。悪魔が起こしていることだ。戦争が起こって神を非難してはいけない。それは人間が神に反逆しているからだ。

5. その所有権を行使するのが、キリストの再臨である。

「御国が来ますように。みこころが天で行なわれるように地でも行なわれますように。(マタイ 6:10)」

1) モーセの律法の中に、贖いの方法について書いてある。人が貧しくなり、土地を売らなければいけないときに、近親者(近い親戚の人)がその人の代わりに土地を買い戻し、土地を失わないようにしなければならない、とある(レビ記 25:25)。(これを行なったのが、ルツ記のボアズ。ルツを妻にするために、ナオミの夫エリメレクの土地を買った。)

2) その土地の購入証書がある。誰が購入し、誰が土地を所有しているかが書かれている。(エレミヤ 32:6-15)

3) それは封印して、来るべき時にそれを解き(壊し)、その巻き物を開くことができる。

→ 「巻き物を開いて、封印を解くのにふさわしい者は誰か(2 節)」

「しかし、天にも、地にも、地の下にも、だれひとりその巻き物を開くことのできる者はなく、見ることのできる者もいなかった。巻き物を開くにも、見るのにも、ふさわしい者がだれも見つからなかったので、私は激しく泣いていた。(黙示 5:3-4)」

1) これまで悲惨な世界の状況を直そうと図った者たちが、世界にたくさん出た。世界を征服することによって変えようとした人もいる。科学や学問、そして思想で変えようとした人もいる。けれども世界は良くなるどころか、どんどん悪くなっている。「だれも」ないのだ！

2) 黙示録は怖いという人がいるが、実際はその逆なのだ。今の世界の状態がずっと続くことのほうが、もっと恐ろしいのだ。悪魔が望んでいるのは、この世界がずっとこのままで続くことなのだ(黙示 17:1-6 参照)。新しい天地を造るために、神は今の天と地を破壊される。

例話： あるマンション(アパートのこと)の建物に恐ろしい病原菌が入った。住民は速やかに避難し、建物そのものを火で焼き、取り壊そうと行政は考えている。ところがいつまでも居残る住民がいる。このままだとその住民はもちろんのこと、建物以外に病原菌が広がる恐れがある。行政は期限まで待ったが、最後通牒を出しその建物を住民もろとも火で焼いて、破壊した。

5-7節： 封印を解くことができる人がいた！！

「ユダ族から出た獅子」： 父ヤコブが、ユダに与えた預言の言葉。獅子のように力と権威を持ち、彼か王とメシヤが出るという預言(創世記 49:8-10)

「ダビデの根」： ダビデからメシヤが出てくるというイザヤの預言(11:1,53:2)

→ 力を持ち、栄光に輝く方であるが・・・

「屠られたと見える小羊」： 死んだが、よみがえられた。

「彼は痛めつけられた。彼は苦しんだが、口を開かない。ほふり場に引かれて行く小羊のように、毛を刈る

者の前で黙っている雌羊のように、彼は口を開かない。(イザヤ 53:7)」

主は栄光の姿でよみがえられた。けれども、手足と腹にある傷の痕跡は永遠に残っている。永遠の愛を私たちがいつまでも思い起こすことができるため。

「七つの角と七つの目」： 角は権威を、目は知識を表す。つまり全世界に権威を持ち、すべてを知っておられる、ということ。(ゼカリヤ 3:9、4:10)

「巻き物を受け取った」： 主は今、神の右の座に座っておられる。しかし立ち上がられる時が来る。詩篇 110:1-7「わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまでは、わたしの右の座に着いていよ。(1節)」

8-10節： 贖いの賛美

「立琴」： ソロモンの神殿で使われた。天国でも使われる。

「香のいっぱい入った金の鉢」： 神殿の聖所に、至聖所との垂れ幕の前に香壇がある。

「聖徒の祈りである」： 大祭司が香の煙を、至聖所の中に入れる。それは、聖徒の祈りだ！(詩篇 141:2; ルカ 1:13) もう一度主の祈りを → 「御国が来ますように」

「小羊の前にひれ伏した」： イエス様への礼拝である。

教会の賛美

「新しい歌」： 新鮮な、親密な神との関わり

「その血により、あらゆる部族、国語、民族、国民の中から」： 教会はあらゆる民族の人々から贖いだされた人々によって成り立つ。(創世 12:3)

「王国(あるいは王)とし、祭司とされました」： 1章6節に既出、教会のこと。

1) 創世記 1章は神の原初の目的、悪魔に譲渡された。

2) アブラハムを選び、土地を与えられた。

3) 聖徒たちへの相続の約束(ダニエル 7:27)

4) 異邦人にも及んだ(エペソ 2:19)

ルカ 19:6-19 日々与えられている領域

「人々」： ギリシヤ語の写本のほとんどは、「私たち」と書いている。つまり…

→ これは、携拳された私たち教会が、イエス様にうたっている歌である！！

11-14節： 万物の賛美

「万の幾万倍、千の幾千倍」： 無数の天使

「あらゆる造られたもの」： 地にあるすべての被造物 詩篇 103:20-22 被造物も賛美する。

「それは、イエスの御名によって、天にあるもの、地にあるもの、地の下にあるもののすべてが、ひざをかがめ、すべての口が、『イエス・キリストは主である。』と告白して、父なる神がほめたたえられるためです。(ピリピ 2:10-11)」

天にあるものも、地にあるものも、すべて世界の贖いを待っている。

「被造物も、切実な思いで神の子どもたちの現われを待ち望んでいるのです。それは、被造物が虚無に

服したのが自分の意志ではなく、服従させた方によるのであって、望みがあるからです。被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子どもたちの栄光の自由の中に入れられます。(ローマ 8:19-21)」
「アーメンと言ひ、…ひれ伏して拝んだ」：これは現在進行形。したがって何度も何度もこれを行なった。

最後に…「しかし、あなたがたは、シオンの山、生ける神の都、天にあるエルサレム、無数の御使いたちの大祝会に近づいているのです。また、天に登録されている長子たちの教会、万民の審判者である神、全うされた義人たちの霊、さらに、新しい契約の仲介者イエス、それに、アベルの血よりもすぐれたことを語る注ぎかけの血に近づいています。(ヘブル 12:22-24)」